

= そろそろ…。 =

久方ぶりに選挙応援のマイクを握った。渋川市議会議員選挙に基幹労連群馬県本部前委員長が出馬しており、本選最終日に何とか駆け付けることができた。若いころ、なんで選挙になると演説する人は皆大声を張り上げるのだろうか、少し引き気味に立会演説会や集会に参加していた。人間は心の持ちようで自らを律し制御できるはずである。しかし、こと選挙は選挙戦と言われるように一種の戦いであり、応援する仲間への強い思いが心を燃やし、厳しい状況の中で何とかせにやいかん、どうかお願いします…と、ここ一番の思いが魂の叫びとして出るのだろう。CMではやりの貴様は？と問われれば、実に冷静に、と言いたいところだが、それを絵にかいたような姿であったろう…。

そうして選ばれた議員の皆さんが行う政治は、私たちの生活や働き方を左右するものである。国の立法府である第198回通常国会が1月28日召集され6月26日までの150日間開かれる。足もと、イギリスのEU離脱問題やフランスの政治動向、イタリア財政の不安、さらに米中貿易摩擦は、「米中新冷戦」のはじまりとも言われる長期化が予想されるなど、複雑化する国際情勢の中で、わが国においては、韓国、ロシアとの外交問題も未だ先が見えない状況にある。

また、国内では、経済報告にある「景気は緩やかに回復基調」と、各種経済統計に示されるほどには国民の生活は改善されてきているとは言い難い。今国会では足もとの実情を見極め、社会保障と税など将来不安の払しょくに向けた道筋を議論するなど、経済・社会問題をはじめ、国際社会の中で日本の位置づけを確たるものとしていく論議が求められる。

ところが、あろうことか、そうした議論の前に、社会保障にも直結し、春闘にも関わる毎月勤労統計のずさんな取り扱いが発覚した。しかも突けば突くほど粗が出てくる現状に嘆き節しか聞こえない。ほんと、何とかせにやいかん、のである。

今、基幹労連では、各産業・業種ごとに労使懇談会を開催している。先輩たちから受け継いだこの懇談会は長いところで88回を数えるところもある。これは、労使それぞれの立場から、競争力強化と働き方、一人一人のやりがいと成長、労使が直面する諸課題を徹底して話し合い、確かな将来と強い信頼関係を育む生産性運動に基づく取り組みでもある。労使共通の課題認識のもと、それぞれの立場から働く者の活力を生み、企業の永続的な発展に向けた心合わせの場であり、各労使の健全な関係がうかがわれる。もとより、こうした労使関係があるからこそ、ものづくり産業が幾度となく経験してきた困難をも克服することができたのである。

AP19春季取り組みにおいてもしかり。互いに常日頃の信頼があるからこそ、時に唾を飛ばし合うような議論もできる。よく使われる緊張と信頼の労使関係とは、まさにそのことであり、信なきところに結果は生まれてこない。以前紹介した、孔子の「信なかば立たず」なのである。

信といえば第25回参議院議員選挙に向けた政策実現活動、今月から定着活動がスタートした。組員・仲間のみならず互いの思いをぶつけあい、さらに強固な信頼を築き、結果につなげる取り組みである。今年は3月6日が啓蟄(けいちつ)、冬眠していた虫が動き出すといわれる日。私たちは一足早く、熱い思いを行動に移していこう。

ご安全に

2019年2月4日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一